2023年5月9日より JFE継手株式会社は

ユビワ　にっぽんつぎて
日本継手株式会社へ

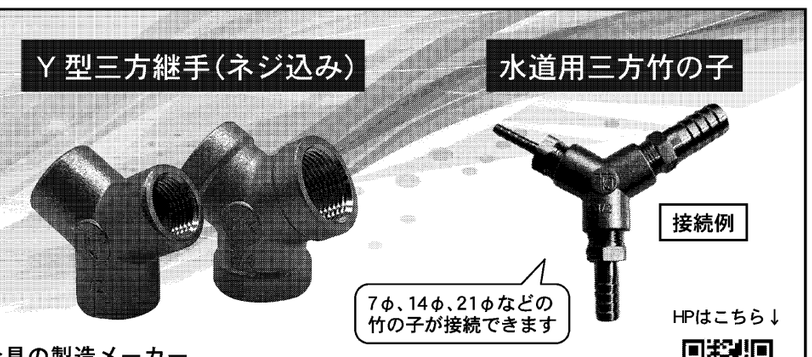
社名を変更しました

1935年創業以来、守り続けてきたブランド“ユビワ印”を
日本から世界へと継（つ）なぐ。

長年培ってきた“ものづくり”の精神を受け継ぎ、常に変化する時代の要請にこたえてまいります。

本社・工場　大阪府岸和田市治米町153番地の1　〒596-0805　TEL 072(445)0285㈹　FAX 072(445)0291
本社営業部　大阪府岸和田市治米町153番地の1　〒596-0805　TEL 072(445)6441　FAX 072(445)6013
東京営業部　東京都台東区蔵前2丁目17番4号JFE蔵前ビル3F　〒111-0051　TEL 03(5823)1651　FAX 03(5823)1653
東北営業所　仙台市宮城野区扇町2丁目4-28　〒983-0034　TEL 022(238)3860　FAX 022(238)3886
中部営業所　名古屋市中川区富船町4丁目1-8岡谷物流株式会社富船第2物流センター内1F　〒454-0823　TEL 052(352)4191　FAX 052(353)5153
九州営業所　福岡市博多区西月隈3丁目2番27号　〒812-0857　TEL 092(471)7456　FAX 092(471)1894
No.0190- ISO 9001　No.E1228-ISO 14001　MS CM002

Y型継手
新登場!
「つなぐ」を考える®



TKJ Tsukiji works　油圧高圧継手・ホース金具の製造メーカー
株式会社築地製作所
営業拠点
東京本社・札幌・仙台・新潟・広島・福岡
HPはこちら↓

―社会基盤を下支えする―

配管機材・技術

施工の効率化・省力化推進

配管機材は水やガスといった液体や気体の流体の安定搬送に欠かせない役割を担う。パイプやバルブ、継ぎ手、支持具などがこれにあたる。安心・安全で無駄のない流体の効率的な利用を支え、社会に貢献している。関係メーカーでは品質・性能の追求と併せて、少子高齢化やこれとリンクする労働人口の減少も背景に、施工時の効率性や省力化に重点をおいたモノづくりを推し進めている。

配管機材集結の展示会開催

配管機材に求められるニーズには安全性や耐久性、耐熱性、耐食性、軽量化、耐震性など、基本的なところから使用用途に応じたものまで、さまざまな品質性能が問われる。

こうした各種配管機材が集結した展示会「第21回管工機材・設備総合展OSAKA2023」（大阪管工機材商業協同組合主催、194社・団体出展）が昨年9月、大阪市内で開催されコロナ禍の影響を受けた前回（2022年、1万405人）を大幅に上回る1万52人）を98人が来場し、出展会場はにぎわいを見せた。

会場では生産現場での省エネルギー性をはじめとした環境関連機器など、ニーズに応える各種機器を出展、紹介。エアコンに用いられる冷媒銅管の接続では、ロウ付けが不要で管同士を簡単につなげられる継ぎ手など、施工現場の省力化に応える機材も目立った。

中でも少子高齢化の進展などにより人手不足が顕在化する現場作業にあって、メーカー各社が重視して取り組んでいるのがこうした施工の効率化対策だ。

現場作業の手間を軽減するため工場で事前に施す、従来の〝プレハブ工法〟的な対応を取る動きもみられる。

継ぎ手メーカーの中には、工場でのプレハブ加工と連動させて、自社開発の共用給湯配管の提供を行っている。ポリブテン管とH種継ぎ手を熱融着して接合したプレハブユニットを工場で製作。現場ではハウジング継ぎ手によるプレハブユニット同士の接続と配管の支持固定作業だけで済むメリットがある。

また配管設備資材のメーカーでは、複数の配管を溶接した配管ユニットの加工・組立工場を新設した。現場に納入するプレハブ工法に対応する。溶接にはロボットを導入して効率化する。建設現場で課題の職人不足と、工期短縮に応える。

これとは別に、空調機器メーカーでは部材の構造見直しにより、施工の手間を減らす省人・省力化対応の機器提供を進めている。

技能労働者の不足傾向拡大

メーカーが施工の効率化に重点をおく中で、実際の現場の現状はどうか―。建設工事に関わる技能労働者の状況は、不足傾向が拡大している。

国土交通省が発表した24年2月の建設労働需給調査によると、全国の8職種の過不足率は1・7％の不足で、前月に比べ0・1ポイント不足幅が広がり、前年同月比では0・7ポイント不足幅が拡大した。

職種別では8職種すべてが6カ月連続の不足となった。このうち配管工は2・2％の不足で、前月比では0・4ポイント不足幅が縮小。前年同月比では0・7ポイント不足幅が広がった。

今後の労働者確保について、5月の見通しは「困難」が前年同月に比べ上昇し、「容易」は下降している。

時間外労働の上限規制が適用された建設業界の「2024年問題」もあり、配管機材のメーカーにも、工期の短縮や省人・省力、さらに経験の浅い作業者に供給するニーズが今後さらに広がりそうだ。

進む人口減少にあって、人手不足を背景に、施工時の省力化に寄与する機材を提供するメーカーや商社にとっても、次代を担う人材確保は重要課題。先の展示会主催者で、卸団体の大阪管工機材商業協同組合（大阪市西区）では展示会を使って、大学生に業界の理解促進を図る「業界研究イベント」を実施している。

出展者ブースをめぐる企画などを通して、実際に製品などを見てもらい、業界への就職につながる機会提供を支援するのが目的。今回の展示会には、25年以降の大学など卒業予定者39人が参加した。

同団体ではまた、新たな採用ルートの確保や従業員のスキルアップを目的に、昨年12月に大阪府立北大阪高等職業技術専門校（大阪府枚方市）の説明会を同校で実施した。

組合員や会員企業などを対象にした説明会で、同校への求人手続きや在職者向けの職業訓練講座の説明、訓練科目全7科目の見学などを行った。

同校は地域の企業、大学と連携し、モノづくり（機械、制御系）や建築分野への就職に直結した訓練を実施。企業ニーズに対応した技術者の育成を目的としている。

同団体ではこうした組合員などの採用支援を目的とした機会提供を今後も実施していく方針。

新製品・新技術機材が集結し、昨年9月開かれた「第21回管工機材・設備総合展OSAKA2023」。多くのユーザーが訪れ、賑わった展示会場。

職種別の状況（原数値）

	今月過不足率	前月過不足率	対前月増減	前年同月過不足率	対前年増減
型わく工（土木）	0.3%	0.6%	△0.3	△0.2%	0.5
型わく工（建築）	4.2%	3.3%	0.9	2.1%	2.1
左　官	4.3%	3.2%	1.1	1.4%	2.9
とび工	0.8%	2.0%	△1.2	1.4%	△0.6
鉄筋工（土木）	0.3%	0.9%	△0.6	0.1%	0.2
鉄筋工（建築）	2.3%	0.5%	1.8	△0.1%	2.4
6職種計	1.9%	1.8%	0.1	0.9%	1.0
電工	1.1%	0.8%	0.3	0.8%	0.3
配管工	2.2%	2.6%	△0.4	1.5%	0.7
8職種計	1.7%	1.6%	0.1	1.0%	0.7

※プラスが不足、マイナスは過剰　　2024年2月の建設労働需給調査（国土交通省まとめ）

有力企業の製品・技術（順不同）

勝川熱工

勝川熱工は産業用熱交換器メーカーとして1934年の創業以来、生産設備の加熱・冷却工程における幅広い顧客ニーズに応えてきた。自動車や食品、化学、医薬品、半導体製造装置などの分野に加え、環境施設の排熱回収用熱交換器としてゴミ焼却場や下水処理場などに熱エネルギーを有効利用する製品を供給する。さらに、地熱利用や燃料電池の水素冷却装置に活用される熱交換器の開発にも取り組む。同社はエネルギー分野で今後の社会ニーズに適合した熱交換器の利用方法の開発に産官連携して取り組み、新たな市場創出を実現していく。

日本継手

JFE継手は親会社の変更に伴い、2023年5月9日付で社名を「日本継手（にっぽんつぎて）」に変更した。英文表記は「NIPPON PIPE FITTING Corp.」に変えた。木島博正常務が社長に就任。寺内琢雅社長が会長に、副社長には吉川健リケン業務管理部長が就いた。

新社名には「1935年の創業以来、守り続けてきたブランド〝ユビワ印〟を日本から世界へと継（つ）なぐ」との思いを込めた。長年培ってきた〝ものづくりの精神〟を受け継ぎ、常に変化する時代の要請に応えていくとしている。

築地製作所

ホース、配管の継ぎ手専門店として65年の実績がある築地製作所は、確かな技術と知識量をもとに、直径6ミリ―350ミリメートルまでの多種多様な継ぎ手を幅広く製造販売している。東京、札幌、仙台、新潟、広島、福岡の各拠点には、油圧用アダプターやホース用取り付けバンド、ワンタッチカップリング、フランジ接続用竹の子などの在庫を豊富にそろえ、直径150ミリメートルまで取り付け加工ができる加締め機を常備する。

常に品質向上、コスト削減を図り、顧客の〝つなぐを考える〟要望に応えるため、製品開発に取り組んでいる。

ウェブでニュースはいかがですか？

ニュースイッチ
NEWSWITCH
http://newswitch.jp/

■ ニュースイッチとは？
日刊工業新聞社のニュースをはじめとするコンテンツを、もっと新鮮に、親しみやすくお届けするサイトです。
少し硬い、難しいニュースをわかりやすく、または詳しく。話題のニュースから、小さいけれどちょっと面白いニュースを幅広い読者へ。そしてニュースを起点に、コミュニティーを少しずつ作っていけたらと考えています。

■ 独自のテーマ
ニュースイッチ編集部が独自に企画・取材した特集記事をはじめ、新聞とは一味違う切り口でニュースをお伝えします。

■ 記者が記事選定・コメントをプラス
日刊工業新聞の記者がテーマごとに気になる記事を紹介、コメント。記事や取材背景を解説します。

日刊工業新聞社

KATSUKAWA　Global Technology
全ての産業を支える熱交換技術

例えばこんなトコロに
「勝川熱工の技術」が
使われています

産業用熱交換器専業メーカー
勝川熱工株式会社
本社　〒578-0903 東大阪市今米2丁目8番9号　TEL072(966)2751㈹ FAX072(966)3056
E-mail:info@katsukawa.co.jp
https://www.katsukawa.co.jp
営業部・工場　〒578-0921 大阪府東大阪市水走5丁目2番32号　TEL072(967)2255　FAX072(967)2256
MS CM007　ISO 9001 22GR-1957